

クリ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	芽 枯 病	胴 枯 病	実 炭 疽 病	ゆ 合 促 進	ア ブ ラ ム シ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	ク リ タ マ バ チ	モ モ ノ ゴ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ネ ス ジ キ ノ カ ワ ガ	コ ウ モ リ ガ	ク リ ミ ガ	ク ス サ ン	キ ク イ ム シ 類	カ ミ キ リ ム シ 類	ク リ シ ギ ゾ ウ ム シ
ドイツボルドーA水	M1		*b	-			◎												
石灰硫黄合剤	M2		*a	-	◎														
トップジンM水㊟	1		3	4			◎												
トップジンMペースト㊟	1		*d *j	3		◎													
ベンレート水㊟	1		*g	4			◎												
ジマンダイセン水	M3		7	2			◎												
ベルコートFL	M7		14	2			◎												
アタックオイル	UNM		*a	-						◎									
ガットサイドS乳	1B		*f *L	1										◎			◎		
スミチオン水40	1B		*g	4						◎	◎								
アークリン水	3A		14	3															◎
アグロスリン水	3A	劇	7	5						◎									◎
アディオン乳	3A		14 *k	5						◎									◎
トレボン水	3A		14	3															◎
マブリック水20	3A	劇	7	2					ク		◎								◎
アドマイヤー水	4A	劇	*n	3					◎										
モスピラン顆粒	4A	劇	7	3					◎	◎		◎			◎				◎
ディアナWDG	5		1	2								◎							
デリゲートWDG	5		1	2								◎							
バダンSG溶	14	劇	*c	3								◎	◎						
アブロード水	16		7	2						幼									
フェニックスFL	28		1	2								◎				◎			
トラサイドA乳	1B・1B		*e *g	1 1							◎								◎
パーマチオン水	1B・3A	劇	*g	4					ク										◎

㊟：チオファネートメチル含有剤 ㊟：ペノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊟は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 856 参照）。*a:発芽前 *b:果実肥大期 *c:裂果前 *d:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後 *e:発芽直前 *f:3～5月（産卵初期） *g:裂果前（但し収穫14日前まで） *j:病患部削り取り直後 *k:羽化脱出期（但し収穫14日前まで） *L:裂果前（但し収穫90日前まで） *n:収穫7日前まで（但し露地栽培については発芽期から開花期を除く）
カ:カツラマルカイガラムシ ク:クリイガアブラムシ 幼:幼虫

クリ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
胴枯病		1. 密植、肥切れなどにならないように栽培管理につとめる。 2. 草生栽培として下草管理を励行する。 3. 枯死枝、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。 4. 枯死枝・病患部は削り取り、傷口、切り口にはトップジンMペーストを塗り保護する。	一般に若木では接木部を中心に発病する。
実炭疽病	7月中旬～8月下旬	1. 発生の少ない品種を栽培する。 2. 密植をさけ、整枝、間伐を励行する。 3. 果実害虫を防除する。 ・ 次の薬剤のいずれかを2～3回、イガに十分にかかるように散布する。 ベルコートフロアブル 1000倍 ベンレート水和剤●● 2000～3000倍	丹沢、伊吹、筑波などにでやすい。 成木にでやすく、幼木に少ない。 雨の多い年にでやすい。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
疫病		1. 発生地では草生栽培とする。 2. 密植、樹の軟弱徒長とならないよう栽培管理につとめる。 3. せん孔性害虫を防除する。	一般に発病部位は地表から1 m内外の高さまでの幹、主枝の部分に限られる。
黒色実腐病		1. 胴枯病、実炭疽病に準じた耕種的防除を行う。 2. 密植、肥切れなどにならないよう栽培管理につとめる。 3. 草生栽培として下草管理を励行する。 4. 枯死枝、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。	東京都では近年発生が多い。 高温の年に発生しやすい傾向がある。
クリイガ アブラムシ(クリキナコムシ)	6月中旬～下旬	・ 次の薬剤のいずれかを散布する(イガの内部まで十分散布する)。 アドマイヤー水和剤*_a 1000倍 マブリック水和剤20 2000倍	岸根ほか中期晩生種に多くなる傾向がある。 *_a露地栽培については発芽期から開花期を除く
モモノゴ マダラノ メイガ	6月下旬～7月中旬・8月上旬～9月中旬(裂果前)	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 バダンSG水溶剤 1500倍 フェニックスフロアブル 4000倍	森早生は7月下旬、8月上旬、中旬、銀寄は8月中旬、下旬、9月上旬それぞれ散布する。

クリ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
キクイムシ類	3～5月 (産卵初期)	・ 次の薬剤を地際から150cmまで塗布または散布する。 ガットサイドS (乳) (塗布) 原液～1.5倍 (散布) 1.5倍	卵のふ化始めを中心に樹幹の産卵部位に薬液を噴霧する。
カミキリムシ類	裂果前	1. 被害部を見つけ捕殺する。 2. 次の薬剤を樹幹部に十分に散布する。 トラサイドA乳剤# 100～200倍	# 裂果前 (但し収穫14日前まで) 薬剤が葉にかかると薬害を起こすことがあるので注意する。
クリシギゾウムシ	9月下旬～10月 (裂果前)	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤 1500～3000倍 アディオオン乳剤 2000倍	
クリタマバチ	発芽期 (4月中旬) または成虫発生期 (6月中旬～下旬)	1. 耐虫性品種を選ぶ。 2. 低樹高剪定栽培を励行する。 ・ 発生の多い時は、次のいずれかの薬剤を散布する。 1. 芽がゆるみ、先端が白く5mm程度のびた時期 (発芽直前)。 トラサイドA乳剤△ 200倍 2. 成虫の発生初期、一般的には品種「筑波」の雄花満開期 アディオオン乳剤# 1000～2000倍 マブリック水和剤20 2000倍	耐虫性品種の中では石鎚、有磨、銀寄、出雲、岸根などは強い。 △トラサイドA乳剤による防除は低樹高剪定栽培でないと、散布ムラから効果が劣る場合が多い。 # 羽化脱出期に散布 (但し収穫14日前まで)
その他の病害虫		ハマキムシ類、キスジキノカワガ、トドマツハダニ、クリフシダニ	

ク

リ